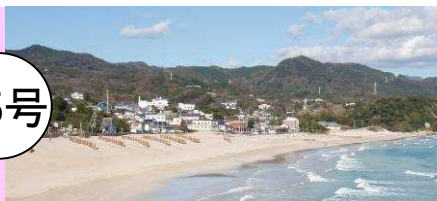


しらはま 白浜

85号

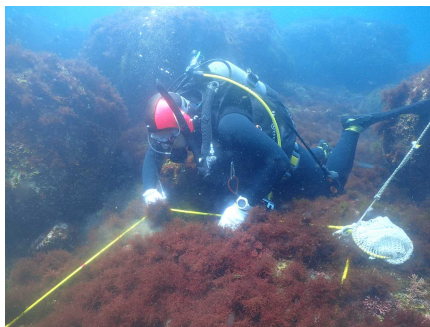


令和3年6月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

令和3年のテングサ作柄予測

当場では令和3年漁期のテングサ作柄調査を3月上旬から4月下旬にかけて、伊豆地域の13地区34地点で実施しました。調査では目視による観察と、1㎡の範囲のテングサを採取して着生状況を把握しています。調査の結果、昨年と比較して仁科地区と下流地区で着生量が減少していましたが、それ以外の地区では着生量が前年並みから増加し、県全体としては前年並みから増加と予察されました。また、伊豆東岸ではカジメやホンダワラなどが衰退した漁場がみられ、そういった漁場ではテングサ着生量が増加していました。積極的な採取を期待します。

解説：本県は全国有数のテングサ生産県で、令和2年の生産量は千葉県(150トン)、愛媛県(88トン)に次いで全国3位(41トン)です。県内では伊豆半島のみで生産され、主な産地は西伊豆町仁科、伊豆市土肥です。



←テングサ漁場での採りの様子



→
カジメやホンダワラが衰退し、テングサ着生量が増加した漁場

キンメダイ親魚採捕

水産・海洋技術研究所ではキンメダイの種苗生産研究に取り組んでいます。4～5月に稲取港から出船して親魚採捕を3回行い、合計129尾を捕まえました。このうち106尾を焼津の駿河湾深層水利用研究施設に運び、これらの魚は、今後種苗生産試験の親魚として用いられる予定です。



採捕したキンメダイ

令和3年度県定置協会総会開催

5月28日にいとう漁協において、静岡県定置漁業協会令和3年度通常総会が開催されました。例年、総会には会員や関連団体が参加し、総会後には記念講演が行われますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、理事・役員十数名による書面議決方式で行われました。総会冒頭に日吉会長から「不漁やコロナ禍の魚価下落など厳しい状況にあるが、クロマグロ資源管理など引き続き取り組んでいきたい」と挨拶がありました。



6月の予定 ●キンメダイ親魚採捕を行います ●マダイ中間育成が始まります ●ヒラメの種苗放流が行われます (1日大熱海、7日網代) ●駿河丸でバラムツ捕獲調査を行います (23～24日) ●キンメダイの資源管理に関する一都三県会議が開かれます (17日) ●下田保育所の子ども達が見学に来ます (9日)

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。